For parents ， For students

丁 寧 に　～「島農モデル」を目指して～

校長　前田　達彦

１　はじめに

本校に赴任して３年目を迎えました。これまでにも増してその職責の重さを感じ、身の引き締まる思いです。保護者の皆様方には、日頃から本校の教育活動に多大なるご支援・ご協力を頂いておりますことに、心から感謝申し上げます。

さて、本校は昭和２７年に地域農業の発展と人材育成の期待を担い、この島原の地に開校された歴史と伝統のある農業高校です。「誠実　勤労　創造」の校訓のもと、６９年目の歩みとともに新たな伝統を築いていく取組を行っているところです。

２　学科改編による新たなスタート

令和２年度の生徒募集から１クラス減の３学科３クラスとなりました。学科名は「農業ビジネス科」「食品サイエンス科」「生活創造科」で、「農業ビジネス科」については、農業自営者養成学科としての位置づけで農業後継者の育成を図っております。

３　新「島農スタイル」の確立

⑴【「島農若葉の会」の発足】　農業自営希望者の就農意欲を高め、「考動力」のある人材育成を行う目的で、令和元年度に「みらい就農者育成プロジェクト『島農若葉の会』」を発足しました。各学科の農業教育に加え、学科・学年の枠を超えた全校的な連携、県内の農高生との交流、農業関係機関との連携や地域農業者による講演会、先進地農家の見学・研修など幅広く体験・学習をしています。

⑵【乳牛体型審査における都府県第１位獲得】　乳牛の共進会において、都府県第１位を過去に４回受賞しています。昨年度の県大会では、六部門中三部門で「名誉賞」を獲得し、最高賞も受賞しました。県内で群を抜き、全国的にも評価の高い乳牛育成技術にさらに磨きをかけています。

⑶【ＪＧＡＰの認証取得】　食品の安全性や労働の安全性、環境保全対策を取り入れた国内基準「ＪＧＡＰ」を取得し、農業教育現場で生かしています。これは、毎年の審査が必要であり４年連続で認証を受けています。「ＪＧＡＰ」の認証取得については、県内の高等学校では本校が唯一であり、新「島農スタイル」を象徴する取組です。

４　地域とともに生き、進化する学校

⑴【スープそうめんシリーズ】　地元の製麺業者山一（南島原市）と本校生徒が共同開発した「スープそうめんシリーズ」は現在も好評発売中です。高校生と地元企業がコラボした商品が１０年以上に渡って販売され続けていることは地域連携の成功例といえるでしょう。令和２年５月、コロナ禍の影響で家計が急変し、困窮している大学生を支援したいという本校生徒の発案で、製造者の協力のもと、共同開発したスープそうめん５千食を長崎大学に贈りました。平成２５年頃、「薬草麺のスープカレー」の開発にあたり、同大学薬学部か

ら助言をいただくなど、共同開発・連携の経緯やご縁があったからです。

⑵【ＧＡＰ食材おもてなしコンテスト】　東京五輪のホストタウンを訪れる選手らに日本の食の安全やおもてなしの心を発信するというコンテストに本県から唯一参加しました。多くの方からの応援投票もあり、大臣賞に次ぐ事務局長賞を受賞しました。園芸科学科の生徒が栽培したＧＡＰ食材を利用し、生活福祉科の生徒のアイディアでレシピを考案、地元のホテルで調理した料理を振舞うというものです。島原にはスペインのレスリング代表の訪問があり、同国の「バル」をイメージした「トマト★バル★島原風」と題した６品をメインに郷土料理を提案しました。

⑶【島原市との連携（経産省予算）】　ＩｏＴを活用できる人材の育成を目指す島原市の事業に本校も連携しています。農業での活用を目的としたドローンの操作技術やＩＣＴ・ＩｏＴを活用する授業を取り入れています。農業ビジネス科の野菜や果樹のハウスにカメラやセンサーを設置し、スマホやタブレットでデータを遠隔地から確認するなど、「スマート農業」の導入によって、それらを活用できる優れた農業自営者の育成を目指しています。

⑷【南島原市との連携（農水省予算）】　「スマート農業加速化実証プロジェクト」に共同実証機関として本校が連携しています。アスパラガスを題材にして、スマート農業技術を活用した生産体系の確立を目指しています。環境モニタリング、自動収穫ロボット、アシストスーツ等の実践的な学習を取り入れ、これらスマート農業の実証を行うことで先進的思考を持つ農業の担い手を育成していきます。

５　おわりに

県内屈指の農業地帯、その真ん中にあるのが島原農業高校です。これまで多くの農業自営者を輩出し、地域の農業や産業を支えてきた学校です。一方、開校以来、幾多の気象災害や雲・普賢岳噴火災害等を乗り越えるなど本校の７０年は地域の方々から支えられてきた歴史でもあります。だからこそ地域とともに生き、進化し続けなければならないと思っています。時代にあった「島農スタイル」を確立し、継続することでより強固なものにしていきたい、そのいくつかは「島農モデル」として、他校の模範となるように努力していきます。

今、「平時」の有難さ、「あたりまえ」の尊さを噛み締めています。この経験を心に刻み、生徒が明るく楽しい学校生活を送りながら、今より一歩前へ、そしてひとつ上を目指すことができるよう「丁寧に」支援していく覚悟です。

（ＰＴＡ新聞（瓢箪畑）　校長挨拶より）